

第4章 ボランティア活動のすすめ

第1節 ボランティア活動とは

阪神・淡路大震災では、宝塚市にも全国から13,000人以上の人が来て、ボランティアとして活躍しました。

震災後、よくボランティアという言葉を目にするようになりましたが、ボランティアとはいったいどんなものなのでしょう。

1 ボランティア活動ってなに？

英語のボランティアは「自由意志」を意味するラテン語「私は望む」を語源としています。つまり、自分から進んで何かをすることです。

それでは、何をしたらいいのでしょうか。

震災の時、バケツを持ってプールの水をくんでいる人を見かけました。炊き出しの手伝いをしている人もいました。

しかし、ボランティアとは、災害の時に困っている人を助けようと行動することだけではありません。

電車の中でお年寄りに席をゆずったり、大きな荷物を持っている人を手伝ったり、道路に落ちている紙を拾ってゴミ箱に捨てている人を見かけます。このような、日頃なにげなくやっていることも、実は小さなボランティアなのです。



あなたの学校では毎年ボランティアスクールをしていますね。車いすにのったり、アイマスクをつけて歩いたり、障害のある人の話を聞いたりして「福祉」のことについて学習しています。そして、デイサービスセンターやワークセンター・老人ホームなどに出かけて行って、クリスマス会などを行っている学校もあります。仮設住宅に住んでいる方と交流している学校もあります。また、アルミかんを集めたり、ベルマーク・グリーンマーク・古切手などを集めている学校もありますね。



学校で福祉の勉強をし、体験し、そして、地球環境のことも含めたボランティア活動を経験する中で、あなた自身の毎日の暮らしを見つめ直して下さい。

2 阪神・淡路大震災 ～そのときボランティアは？～

宝塚市では、震災前にボランティアとして登録していた人が約2,600人いました。しかし、その多くは被災者であり活動できませんでした。

そこで、1月21日に発足したボランティア本部には、全国各地から震災ボランティアとしてかけつけた人たちが集まり、復旧ボランティア活動が始まりました。

当初は救援物資の積みおろしや仕分けに追われていましたが、10日もすると被災者のニード（必要とする物）とボランティアのできること・やりたいことによる分担もできました。このことで、仮設風呂・警備・引っ越し・子ども保育・シート張り・カーボランティア・洗濯・避難所応援など幅広い活動ができるようになりました。

震災から1か月もたつと、宝塚市在住のボランティアが被災に負けずに活動を再開しました。さらに、従来の登録者をこえる人たちがボランティア本部へかけつけ、活動を支えてくれました。

2月28日、宝塚市はボランティア本部を解散しました。地元のボランティアが立ち上がった以上、今後何年かかるかわからない復興へ向けた活動は我々宝塚市民が担っていかなければならない、という決断に立ったものでした。解散式では「いつの日か宝塚にお越し下さい。不死鳥のようによみがえった宝塚を見て下さい。」との強い決意の中、地元ボランティアに活動が引き継がれました。

6月には、新たに「でえくさんず」というボランティアグループが発足しました。仮設住宅に住んでいるお年寄りなどのニードに応じて、日曜大工を主な活動にしています。

多くのボランティアの方々の力により、宝塚市の震災復興も少しずつ進んでいます。あなたにもできることがあるかも知れません。



第2節 ボランティアのすすめ

1 ボランティアはだれにでもできる！ ～みんなの力に～

ベルマークを集めたり、ゴミをひろうボランティアならいつでもできます。でも、もう少し積極的に社会のために何かをしてみたいと考えている人もいます。わたしにでもできることがあるのだろうか？やってみたいという気持ちはあっても、不安もありなかなか一歩が踏み出せずにいる人が多いのではないのでしょうか。

友だちと誘い会ったり、お父さんやお母さんといっしょにボランティアのとびらをたたいてみませんか？

宝塚市には、そんなあなたの気持ちを案内してくれるところがあります。それは、ボランティア活動センターです。安倉にある宝塚市総合福祉センターと阪急宝塚駅前のソリオ宝塚Ⅰ3階の2か所にあります。気軽に相談してみましよう。

きっと、すばらしい出会いが待っているでしょう。

あなたのクラスでは、福祉読本「みんなの問題です」を使って学習をしたことがありますか。この本の中にもボランティアのことがくわしく書かれています。(P25～)

また、ボランティアグループはどんな活動をしているのか知りたい人は、先生に言って福祉読本「みんなの問題です」指導資料集(P25～)を見せてもらいましょう。宝塚市内で活動しているグループが紹介されています。



宝塚市ボランティア活動センター

◆〒665 宝塚市安倉西2丁目1番1号

TEL 0797-81-2443

◆〒665 宝塚市栄町2丁目1番1号ソリオⅠ3階

TEL 0797-85-8875

2 ボランティアに取り組んで

1月17日午前5時46分ごろに、震度7という大きな地震がありました。私は、このような体けんは初めてで、とてもびっくりしました。このときの部屋の様子は、食きはわれていて、たんすはかべにたおれかかっている、本当にすごいじょうたいでした。私はかぜをひいていて手伝えませんでしたがお母さんとお姉ちゃんは、食きをなおし始めていました。

何日かたって、私たちはひさい者の人たちのためにクラスで何かしようと話し合いました。千羽鶴をおったり、はげましの手紙を書いたり、みんなで歌をふきこんだりしました。洋服とか、文ぼう具も持ちよりました。みんな一生けんめいやりました。私は、今までこういうことをしたことはありませんでしたが、やってみてよかったと思いました。新聞を読むと、小さな子からお年よりの方たちまで、がんばっている様子がのっていました。

“みんな、それぞれ自分のできることでがんばっているんだ。”

と思いました。

私は、前から自分にできるはんいで、地しんでひがいにあった神戸とか西宮に、何か手伝えることがないかということを考えていました。そのことを友だちに話し、2人で先生に言いに行きました。

「学級会でみんなに呼びかけてごらん」

と先生は言われました。

学級会ではみなさんせいしてくれました。すごくうれしかったです。役に立ちそうなものをむりしないで持ちよることにしました。タオル、文ぼう具、いるい、日用品、かばんなどです。私は、自分で言い出したことだから、やれるときは一生けんめいやりました。2組にも声をかけて、いっしょにやり始めました。

手紙やぶっしは、神戸の小学校へ先生とクラスの代表の人が車で持って行ってくれました。行った小学校は、7人もの小学生がなくなってしまったそうです。その先生方は、なみだを流してよろこばれたということを聞きました。

私は、そのことを聞いたとき、うれしさがこみあげてきました。みんなでがんばったことが、そんなに役に立ったなんてうれしくてたまりません。これからも、自分たちでできることを見つけて、どんどんやっていきたいと思います。

<末広小学校4年生の作文より>

末広小学校の人だけではなく、市内の小学校や中学校で「自分にできることはないか」と一人で、兄弟姉妹で、家族で、友だちと、学級で、児童会・生徒会でといろんなところからボランティアの活動をはじめました。

その活動がとれだけ疲れはてた被災者を元気づけたかわかりません。そして、多くの大人たちを勇気づけました。

あなたたちのほんの小さなボランティアが、実は宝塚市の震災復興に取り組む大人たちの大きな励ましになっているのです。

第3節 学校での取り組み

1 宝塚市立中山桜台小学校

ボランティアスクール

市内の全ての小学校で、ボランティアスクールが行われています。あなたの学校では、もうおわりましたか？

福祉のこと、ボランティアのことについて少しでも知ろうと計画的にされています。障害のある人やお年寄りの話を聞いたり、車イスやアイマスクの体験をすることで、あなたが何を考え、どうしたらいいのかを考える機会にしてほしいのです。

ふだんにげない坂道や段差のある歩道が、車イスや目が見えない人にとってはどれだけ危険なことがよくわかったと思います。

中山桜台小学校では、その他に夏休みを利用して体験学習や施設見学を行っています。

宝塚市安倉西には、あしたば園やさざんかの家があります。障害のある子どもたちが生産活動などを通して、社会への適応性を高めるための訓練をしているところです。

いっしょに、クッキーを作ったり、手織をしたりすることで交流を深めています。

その他の活動

クリーン作戦という名前で自分たちが生活する学校はもとより、地域に出かけて行って、公園や道路に落ちている空き缶やゴミを拾っています。

くなにげなく捨てられる古切手・テレカにいのちを与え「福祉の旅」を>に協力しベルマーク・ロータスクーポンなども含め学校ぐるみで収集しています。



2 宝塚市立光明小学校

光明小学校でも、中山桜台小学校やあなたの学校と同じような取り組みがなされていますが、あなたの学校と少し違うところがあります。

それは、すぐ横に、光明デイサービスセンターがあるということです。デイサービスセンターというのは、自分の家で生活している体の弱いお年寄りに来てもらって、入浴や食事・健康チェックなどをしながら、お互いの交流を深めるためのセンターです。

光明小学校の3年生になれば、グループごとにデイサービスセンターに出かけて行って、いろいろな交流をします。



わたしは、デイサービスセンターへ行くと聞いて、びっくりしました。プレゼントは何にしようかな？と、よく考えました。わたしは、デコパージュを作りました。すこし少ないのでティッシュカバーも作りました。お母さんは、「きっと、よろこんでもらえるよ。」と言ったので、よかったです。

デイサービスセンターに行き、いろいろなことを教えてもらって、よかったです。ふうせんバレーボールも、とても楽しかったです。昔のクイズはかんたんでした。そして、ぬいぐるみをもらいました。ねこのぬいぐるみをもらいました。とってもうれしかったです。

(平井 睦子)

おじいさんやおばあさん、前はいっしょに遊んでくれて、ありがとうございました。フーセンバレーボール、すごく強くて、私はびっくりしました。

おじいさんやおばあさん、はやく元気になって、フーセンバレーボールだけでなく、もっと体の使えるスポーツができればいいネ。

おじいさんやおばあさんとあく手した時、とても手があたたかかった。

またいっしょに遊べたらいいです。

かわいいおにぎょう、ありがとう。

(松代 朋)

ふうせんバレーボール、おもしろかったよ。おじいちゃんおばあちゃんはレシーブが上手だね。こんどは光明小学校にあそびにきてね。

また、デイサービスセンターに行ったら、今度はおじいちゃんおばあちゃんがあんないしてね。また行ったとき、ふうせんドッチボールをしようね。こんどいったらぜったいかつよ。

(馬田 健司)

この交流を通して、「いつもバスを見て、今帰るのかと思っています。またいきたいな、とばかり思います。」と書いている友だちもいました。

第5章 情報について

第1節 災害時の情報について

1 正しい情報をすばやく入手しよう

1995年1月17日の阪神大震災では、市内のあちこちで電柱が倒れ、電線が切れました。そのため市内全域で停電しました。

そんな状況では、人々はどんなふうに被害の様子をつかみ、それに対応していったのでしょうか。あの地震を体験した宝塚の子どもたちの作文です。

おとうさんはかいちゅう電とうをさがしにいった。……おとうさんとおかあさんはラジオをさがした。電気が消えて、ていでんになった。(光明小学校2年 森 有紀)

ちゅう車場に出て、ほっと一息して、ラジオがあったので、それを聞いたら、「……しんげん地は、あわじ島の北だん町です。」と、言っていました。

もう一回、ラジオを聞いたら、しんげん地の北だん町は家が、つぶれたりしていると言っていました。(西山小学校4年 草壁 みのり)



ラジオを聞くとM7.6というものすごい地震が神戸をおそっていた。……電気がとおるとテレビがつき、見てみると予想以上にひどかった。電話がいっぱいかかってきて東京の友達からも電話がかかってきてちょっとうれしかった。テレビを見ると学者さんたちが、「くつをはいてでればいいとおもいます。」など無理なことばかりをいっていたのではらがたってきました。(長尾台小学校5年 細見 武史)

そして、近くの公園の公衆電話に大阪のおばあちゃんと神戸のおじいちゃんの家電話をかけに行きました。大阪のおばあちゃんの方は何回か電話してやっと連絡がついて、みんな無事だそうで本当にほっとしたけれども、神戸のおばあちゃんの家は神戸市東灘区ということもあって余計に心配でした。(宝塚小学校6年 大町 智子)

ミニ知識

けむりはどれくらいのスピードで広がるか知っていますか。廊下などでは、人の歩く速さで広がります。階段などでは、人が走って上がる速さで広がります。

この文からわかることは、

- ・被害の直後は停電していて電気器具は使えない。だから、ラジオもテレビも使えない。
- ・被害の様子を知ったりどうすればよいかを考えたりする情報は、携帯ラジオしかなかった。
- ・しかし、ラジオは音声だけなので様子を詳しく知るという点では不十分だ。電気が通じた後はテレビが中心で、テレビには画像もあり、その様子が詳しくわかった。
- ・けれども、ラジオやテレビは被害を受けた人々に必要な情報を、十分に伝えたわけではなかった。
- ・詳しい情報（個人の安否、避難先など）は、電話でしかわからなかった。
- ・しかし、その電話も家庭ではなかなかつながらず、公衆電話を利用しなければならなかった。

宝塚小学校の5年生が地域の人たちを調べたアンケートでも次のような結果が出ています。

- ・知りたかった情報を、どのような手段で知ることができましたか。
テレビ 携帯ラジオ 新聞 電話 公衆電話
- ・知りたかった情報を、速く知ることができた手段は、何ですか。
テレビ 携帯ラジオ 新聞 電話 ラジオ 公衆電話 カーラジオ
実際に見に行った
- ・知りたかった情報を、くわしく知ることができた手段は、何ですか。
テレビ 新聞 携帯ラジオ 電話 ラジオ 公衆電話 実際に見に行った

2 デマ・うわさ

情報には、台風情報のように科学的に根拠のある情報と、科学的な根拠のあいまいな情報があります。

「〇日に地震が起こる」というのは、今の科学では予測できないことです。そのような情報をデマ・うわさなどといいます。受け取った情報は、うわさかどうかをきちんと考えてから、行動しましょう。

ミニ知識

宝塚市は乾パン10,000食・毛布5,000枚を用意して、大きな災害に備えています。

ミニ知識

アメリカでは大きな竜巻^{たつまき}が発生し、家が飛ばされるなどの被害が出ている、というのをニュースで聞きます。しかし、日本でも規模は小さいけれど、結構あちこちで発生しています。すばやく逃げることです。

災害のときにはたくさんの情報がとびかいます。情報を伝えるものには、それぞれに、長所と短所があります。まとめてみましょう。

	停電のとき	詳しくわかる	早くわかる	正しくわかる	そ の 他
ラ ジ オ					
テ レ ビ					
新 聞					
電 話					
人 の 話					

ミニ知識

宝塚市では、ブロック塀^{べい}から生け垣への転換を応援しています。緑は、気候を調節したり、空気をきれいにしたり、音を消したり、生き物を育てたりする機能を持っています。また、自然災害の発生を未然に防止したり、災害時には、被害の拡大を止めたりする働きも持っているのです。

3 被災した人たちの情報交換

地震の時には、他の地域から多くの物資が届き、復旧隊やボランティアの人たちが協力してくれました。また、人命救助や生活の復旧にも大きな力を発揮しました。しかし、多くの情報の中から、正確に情報をつかみ取ることはむずかしく、避難所に本当に必要なものがなかったり、あまってしまったこともありました。外科の医師が、かぜをひいた人たちの診察をすることもありました。



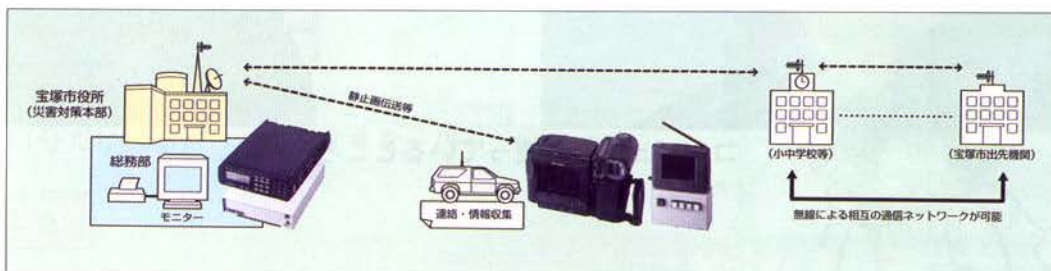
このような経験をいかして、被災者どうしがおたがいに、正確で、より必要な情報を交換しあうことで、混乱した生活を立て直そうという活動もひろがってきました。

第2節 宝塚市の取り組み

この震災で、情報の収集や発信することの大切さが強調されています。宝塚市でも、いろいろな取り組みが進められています。

1 防災無線

災害直後において、電話が通じない場合に役立てようとするものです。市役所や公共の施設、公用自動車に設置され、連絡を取り合うことができます。その他、災害の状況をテレビカメラで撮影して送ることもできます。こうして2次災害を防ぐことができるようになります。また、近隣の市との連絡にも役立ち、援助しあうこともできます。停電の時でも、内蔵の電池で通信できます。



ミニ知識

家を建てるのに、接道義務というのがあります。「道路に2m以上接していなければならない」というものです。これは、災害時の避難経路の確保と消防活動がスムーズに行えるようにしたものです。

2 防災ネットワーク

災害時に、無線以外にも非常用の通信手段としてコンピュータを使った防災ネットワークシステムが設置されています。これは災害対策本部と避難所になる小学校、中学校、公民館などをISDNという高速の電話回線で結び、災害対策本部の情報を得たり、避難所の情報を送ったりするものです。文字だけでなく、地図や写真も送れます。



3 新しい機器で情報発信をしよう

パソコン・ファクシミリ（FAX）・携帯電話・ケーブルテレビ・衛星放送・文字放送・音声多重放送・テレビ電話・ビデオテックスなど、次から次へと新しい情報機器が開発されています。情報化時代をむかえ、これからも便利で使いやすい機器が開発されることでしょう。

これらの機器を必要に応じて使いこなすことは、これからの私たちの生活にとって欠かせないことです。

あなたの学校には、コンピュータ・ファクシミリ・防災無線が設置されています。どんな使われ方をしているのか調べてみましょう。そして、計画を立てて自分たちで使ってみましょう。



コンピュータを使っているところ

ミニ知識

道路は、宝塚市内を網の目のように走っています。道路は、被災者が避難したり、救援物資を運ぶ者が通ったりするだけでなく、火災の拡大を抑える役割もあります。

第6章 心のケア

第1節 災害を受けると心や身体にどんなことがおこるのでしょうか？

災害によって受けた被害や苦しみは、はかりしれないものがあります。そのため、災害に合った人の心や身体にいろんな変化が現れてきます。

1 災害に合った人なら誰もが感じること

悲しみ

- ・大切な人が亡くなったり、ケガをした……
- ・災害によって家や大事な物を失った……

恐れ

- ・同じような災害がまた起こるのではないかと……
- ・家族が離ればなれになってしまうのではないかと……

怒り

- ・なぜ自分がこんな目にあわなければならないのか……
- ・ほかの人はなぜわかってくれないのか……

不安

- ・これからどうなるんだろうか……

無力感

- ・人間はなんと力のないものだろうか……

気兼ね

- ・自分だけ無事だったのをすまなく思う

心苦しき

- ・自分が他の人に助けてもらわなければならない心苦しき

疎外感

- ・自分が相手から大切にされていないと感じてしまう



2 身体の変調

下の表は、阪神・淡路大震災の時の記録です。あの大震災の後、学校が再開されましたが、体調が悪く保健室に行った人たちの症状のまとめです。

(複数回答)

小学校	頭痛・腹痛・動悸 ^{どうき} など	眠れない	体重の急激な変化
	50.7%	40.8%	22.5%



中学校	頭痛・腹痛・動悸 ^{どうき} など	眠れない	強度の無気力 食欲の減退
	56.8%	48.6%	21.6%

『災害を受けた子供たちの心の理解とケア』（兵庫県教育委員会）より抜粋

人は、予期しない恐ろしい体験や悲しいできごとに合った時、恐怖・悲しみ・不安などのすべてを一度に受け入れることはできません。

時がたつにつれ、災害で受けた心の傷を少しずつ受け入れ、その傷をいやそうと『心や身体』にさまざまな変化が起きます。

その変化は、自分だけに起きたことではなく、災害という異常なことに合った人なら誰でも体験する正常な反応なのです。

3 心の健康を取り戻すにはどうしたらよいのでしょうか

❖ 《できるだけ話をしましょう》

話すことによって、いつもの心がとりもどせるようになります。

- ・話しやすい大人の人に聴いてもらいましょう。
- ・話しても安心と思える友達といっぱい話しましょう。
- ・同じような体験をした人がいたら話しましょう。

❖ 《身体を動かしましょう》

身体を動かすと、気持ち^{やわ}が和らぎます。

- ・身体を動かす遊びをいっぱいしましょう。
- ・学校や地域の行事に、すすんで参加しましょう。
- ・すすんで手伝いをしたり、自分に出来ることをやってみましょう。



❖ 《相談しましょう》

学校の先生方、
カウンセラー、
専門の医師
などに相談しましょう。



あなたの悩みや気持ちを打ち明ける相手がいない時、あるいは、打ち明けたいと思う人が見つからないとき、あなたの話を聞いてくれる機関もあります。

宝塚市立教育総合センター教育相談課

TEL 0797-87-1718

宝塚心のケアセンター

TEL 0797-84-2906

ひょうごっ子悩み相談センター阪神分室

TEL 0798-23-2120

第2節 震災で学んだこと

阪神大震災

宝塚小学校6年 竹内 麻衣子

1月17日5時46分「阪神大震災」が起こった。

私は16日の晩、なかなかねむれず、ふとんの中で時計が夜中の2時を過ぎたのまでは覚えている。私は母の悲鳴と名を呼ぶ声に目覚め、何が何だか分からないまま声のする方へ行こうとしたが、ものすごいゆれ。

ゴ〜という音。バリン・ガタン・ドン・ガッチャーンという音。

キャーという悲鳴。父の呼ぶ声……。

何もかもいっしょに私の耳に飛びこんできた。

今、思えば、何が起きているかさえ考えられなかったし、『地震』という言葉は全くうかばなかった。ただ『にげるんだ。にげなきゃいけないんだ!』というのは感じた。

私は夢中で母の所まで行った。弟がなかなか起きてこなかった。私は弟の事も大切なヴァイオリンの事もすっかり忘れていた。

キッチンに出るふすまが開かなくて、あせってしまった。2・3回体当たりをして、やっとの思いでキッチンまで出た。『こりゃすごい』視力0.1の私にも見えた。目線の部分は確かに広がっていた。しかし、少し下に向けると『お〜』何もかもたおれ、床がうもれていて、足のふみ場がなかった。私は、何とかして玄関まで行こうとしたが、

「動いちゃだめ!! くつをはいて!!」

と、母の声。

父にくつを取ってもらい、たおれている物の上をはい上がり、やっと外の廊下まで脱出成功。

寒さなんて感じなかった。心ぞうがドッキンドッキンと鳴りひびき体がガタガタふるえていた。

私の家は12階建てマンションの8階。弟と私はろう下に出された。まわりの人がすぐ出てこなかったのが心配だったが、一番気になったのは、真っ暗でメチャクチャな家にもどり、洋服やかい中電灯など取りに入った父・母・兄がもどってこなかったことだ。

『もし、またあんなゆれが来たら』

と思うと「ドキドキ」となり、

「早く下におりよう!早くしないと!」

とさけんでしまった。

それでも父達は出てこなかった。母が、

「ゆうと二人で下におりといて。」

と言ったが、私はおりなかった。バラバラになるのがとてもこわかったからである。

パジャマの上から着れるだけの服をきこんだ。

「だして!だれか助けて!」

と声がした。

『ドキッ』としたが、すぐに親にしらせるために、

「なんか声がする!」

とさけんだ。

となりのおばさんだった。ドアがあかなくなると、泣きさけんでるように聞こえた。私は、かい中電灯でかぎ穴を照らすように、父に頼まれた。それも長かった。父や母は鉄のドアとかくとうしていた。急に寒さを感じ始めた時、「ドーン」とものすごい音がした。鉄のドアがはずれた。私はびっくりした。

そのおばさんは、今でも私の父を『命の恩人や。』と言っている。

私が『一安心』と心の中でつぶやいた、その時だった。ろう下をはさんだ向かいの人が、

「娘が下じきになって……。真っ暗で何も見えないんです。助けて下さい。」

と、ふるえた声で言ってきた。

私は完全にパニックしていた。父が助けるためにその人の家に入って行った。母と兄はいつの間にか、両手いっぱい荷物を持っていた。セーター・ズボン・くつ下・コートなど、手あたりしだいつめこんだらしい。それは、マンションの下に降りると大いに役立った。寒さにふるえている人。パジャマだけの人。母は、どんどん配りまくっていた。私は、

『さすが、おばたりあんやなあ。』

と、変に感心した。

ケガをしている人も沢山いた。そんな人を見ていると、学校の友達の事が気になった。

『みんな大丈夫だったかなあ。』

と思った。

マンションもあちこちこわれていた。歌劇場のカーブでは、電車が3両ほどコロコロとたおれていた。ファミリーランドのにしきへびがにげたので注意して下さい、と聞いた。ガスもれのおいもした。

大橋の下の駐車場に移り、友達の家族といっしょに不安なまま、ぼんやりとすごした。話す内容は、

「これがたおれたら、おしまいやな。」

とか、

「このまま行く所がなかったら野宿やなあ。」

とか、そんな話だった。

もう寒くてたまらなくなった時、宝小と中学の体育館がいっぱいなので、みんなで第一小学校にひなんした。5日間、体育館で生活した後、祖父母の家に行く事になった。

5391人の尊い命が失われた事を思うと、私達家族全員無事だったのは、不幸中の幸いだと思う。家族の大切さをとても深く味わった。

今回の事で、私は親にたくましさ、勇気、強さを感じた。私達子供だけが初体験だったのではない。それを思うと、なおさら

『さすがだなあ。』

という気になった。

『今度の経験がこれからの日本の世の中にプラスになるよう、私達が作って行かなくてはならないのだな。』

と思う。

人間は一人では生きていけない。助けたり、助けられながら人に守られて生きているのだと、つくづく思った。

私は、大分の学校に仮転入するという貴重な体験もでき、良かったと思う。

「こわかったよ」(宝塚市教育委員会)より抜粋



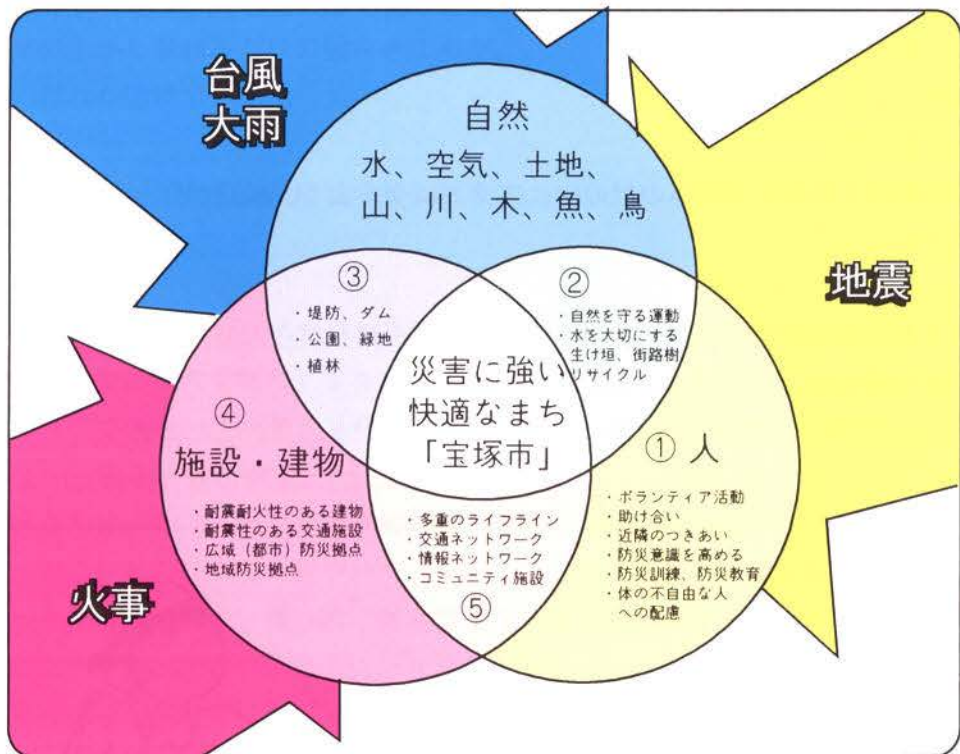
第7章 災害に強いまちづくり

第1節 災害に強いまちづくりとは？

災害に強いまちとは、どんなまちでしょう。……

そなえあれば憂いなし、と昔からいわれていますが、自分の住んでいるまちがどのような被害を受けやすいかを考えて、それに対する予防をしておくことが大切です。たとえば、宝塚市には海がありませんから、ふつう、津波の被害は考えられません。しかし、地震や洪水、台風、大火事といったことを想定して、川や道路などの危険な箇所を直しておく工事をしたり、非常時の連絡方法や避難体制を整えたりしておく必要があります。

次に、実際に、災害が起きたときは、その被害を最小限にとどめる手立てが大切です。今回の震災では、避難所として学校がたいへん役に立ちましたが、このような避難場所として公園を整えたり、火事が燃えひろがらないよう、道路を広くしたり、家のまわりに木を植えたりします。また、負傷した人を運ぶために、一定の交通制限をしたり、あらかじめ救援体制を整えておくことなどが考えられます。



「災害に強い快適なまち」を人と自然と建物・施設の3つの面から上の図のようにまとめてみました。

① 人の面では

- ・地域のつながりを大切にコミュニケーションを密にする。
- ・防災意識を高めるため、防災訓練や防災教育をする。
- ・ボランティアの活動の意識を高める。

② 人と自然との関わりでは

- ・自然を大切にし、自然を守る活動をする。
- ・むやみに森林を伐採^{ばっさい}したり、乱開発をしない。
- ・ごみを減らす、リサイクルをする。
- ・植林をしたり、街路樹を植えたり、生け垣をつくったりして、緑を増やす。

③ 自然と施設の関わりでは

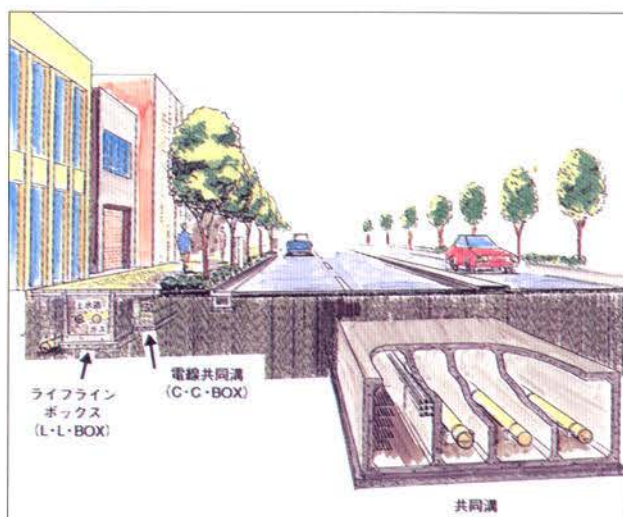
- ・生活用水や防火の水を確保するため、ダムなどをつくる。
- ・山崩れや、水害が起きないように堤防などをつくる。
- ・公園や緑地をつくり、自然環境を保全する。

④ 建物・施設面では

- ・台風や地震や火事にも耐えられる構造や材料を考える。
- ・災害が起きたとき避難できる道路・公園や防災施設をつくる。

⑤ 人と施設との関わりでは

- ・人とのつながりを密にする施設をつくる。
- ・ガスや水道や電気など生活するために必要な施設を強化・多重化する。
- ・交通施設が壊れないように、壊れてもすぐ使えるように考える。
- ・広い道路や広場をつくり、災害の時、避難しやすくする。
- ・電話、テレビ、ラジオ、無線、パソコンなど外部との連絡が途切れないうにする。



ライフライン整備概念図



長尾南小学校周辺防災地図



地域ステーション
及び防災拠点イメージ図

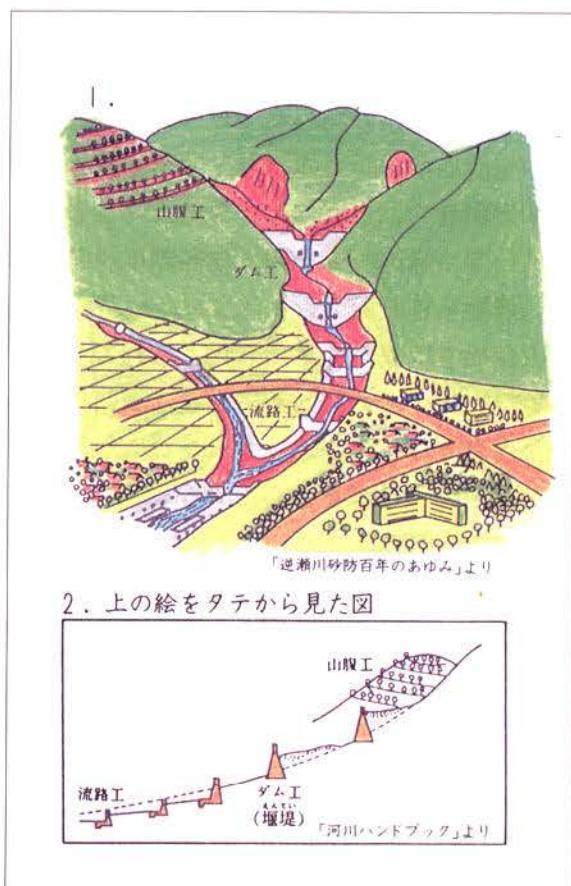
この他にも考えられますね。みなさんも思いついたことをかいてみてください。

第2節 宝塚市ではどう取り組んでいるのか

★逆瀬川砂防工事（水害対策）

日本には活断層や崖^{がけ}、川岸、低地帯等、人が住むには危険な場所が、たくさんあります。アメリカやロシアは危険な所を無人にして、住民を移住したりしています。狭い日本では多くの人々が住んでいるので、なかなかそのようなことはできません。そこで、災害に対する備えで対処してきたと言えるでしょう。

宝塚では、1680年に美座村が武庫川の洪水で多くの家が流され小浜村の地内に移住した歴史があります。しかし、第1章で学習したように、逆瀬川は、昭和の砂防工事によって川の両側が整備され、安全になって多くの人々が住むようになってきました。逆瀬川の上流の地域には、山すそから斜面にかけて切り開かれた土地に、新しい住宅が建てられてきました。逆瀬川の開発は大水による災害を防ぐ工事によって進められてきました。



★宝塚市の震災復興計画

宝塚のくらし 4年 P 49

宝塚市は、震災を教訓として、平成7年6月、どのようにまちを復興していくかという計画（震災復興計画）を決めました。その策定^{さくてい}の過程では、有識者や市民代表などをメンバーとする「震災復興計画検討委員会」からの助言や、広く市民からの意見・提言を取り入れるようにしました。

このようにしてできた計画は、「人間性の尊重」を基本とした安全で快適な都市づくりを基本理念として、復興の目標として次の4つの柱をあげています。

- ① 災害に強い都市の創造 ② 快適都市の創造
- ③ 共生社会の創造 ④ 新しい宝塚文化の創造

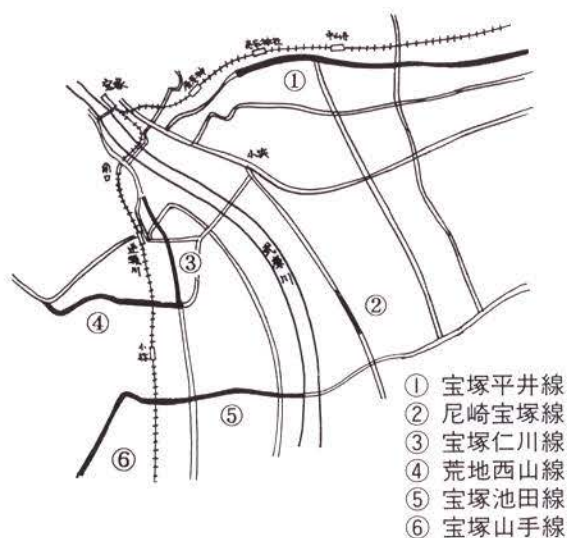
★宝塚市の重点復興地区

宝塚市は、震災により甚大^{じんだい}な被害を集中的に受けており、特に緊急かつ重点的にまちづくりの施策^{せさく}を行う必要のある地区を、「重点復興地区」に指定しています。

この重点復興地区は、はじめは、「売布神社駅前地区」、「仁川駅前地区」、「花の道周辺地区」、「中筋J R北地区」の4地区でしたが、その後、「川面地区」、「売布地区」、「山本地区」の3地区が追加されました。

これらの地区では、一部を除いて、計画的に道路をつくったり、被災した商店が入るためのビルを建てたりするなど、すでに新しいまちづくりが進行中です。

★道路の整備



宝塚市は急速な都市化のため、道路の整備が遅れ、交通渋滞^{じゅうたい}が増えています。

中国自動車道^{へいさ}の閉鎖や制限があると、すぐに市街の各道路で渋滞が起こります。

幹線道路の予定地には、すでに住宅がたくさん建ち並び、立ち退きがともなうため、拡張や拡幅はなかなか進みませんでした。

震災後、都市防災機能の向上のため、特に、6幹線道路、西谷と市内を結ぶ連絡道路の整備に着手しています。また、生活道路、細街路の整備も進めています。

★新たに災害に備えた都市防災機能で進められているもの

- ・ 公共施設の耐火、耐震性等の改善工事
- ・ 地盤状況などの災害への備えのための情報提供、都市の防災構造化（防災拠点、防災ネットワーク）
- ・ 公共施設へのインターネットや防災無線の導入
- ・ 良元小学校などの防火水槽、水道管・ガス管の耐震管の施設
- ・ 災害への備えの充実

★住宅の復興、整備計画

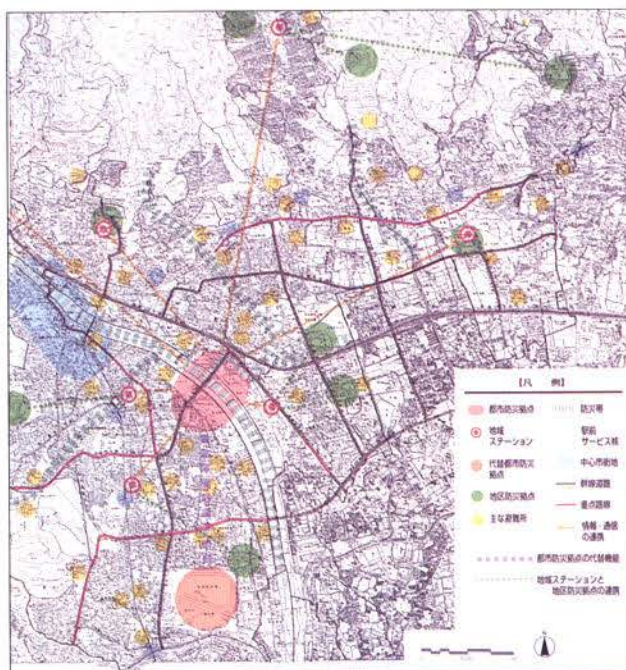
- ・ 良質な住宅の早期供給をめざして個人住宅の自力復興の支援
- ・ 町づくりのコンサルタント派遣
- ・ 高齢者や障害者向け住宅の供給
- ・ 復興融資制度の適用、住宅耐震診断
- ・ 安全を高める住まいづくりの支援

★共に生きる社会をめざして

- ・ 情報コミュニケーションの推進
- ・ ボランティア活動の振興
- ・ コミュニティー施設の整備、町づくり協議会の設置と活性化

<再開発のまちづくりのねらい>

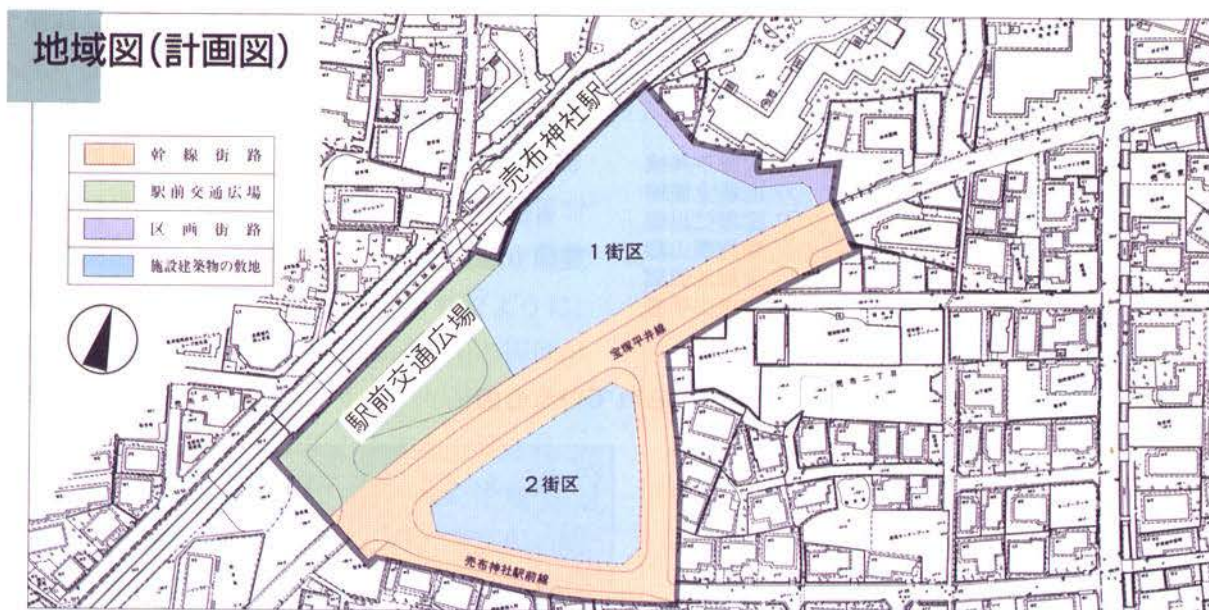
- ① 公共空間の確保 ② 避難場所の確保 ③ 古い建物の整備



防災拠点、防災ネットワーク構想

★売布神社駅前地区

売布を例にとれば、「駅前に交通広場をつくり、車の出入りをしやすくする」「災害時には非常用物資の保管等に使う」「緑を増やし、道路を拡幅する」「商店街をビルの中に入れ、公共文化施設を作る」「ビルの上層階に住居をつくる」等。仲間づくり、ネットワークづくりが生かされる「場」としての機能も考えられています。



売布神社駅前復興計画地図

＜売布神社駅前地区整備方針＞

- ① 災害に強いまちづくり
- ② 都市型住宅の建設
- ③ 売布地区の近隣センターの役割
- ④ 地区住民の日常生活の利便性と地域文化の場の提供

売布地区を加えた3つの地域で、宝塚南口、逆瀬川、宝塚につづく駅前再開発が進められています。



売布神社駅前計画イメージ

第3節 私のまちづくりプランを立てよう！

(1) はじめに

近い将来、私たちが大きな災害に見舞われるかどうかは、だれにもわかりません。しかし、実際に阪神・淡路大震災を体験した私たちが、私たちの子どもたちや、その子孫までもが安心して暮らせる、将来のまちづくりを考えると、次のようなことを考えておくことが、私たちの努めであり、将来に対する責任でもあります。

- ① 被災して生命の危険がある人に、真っ先に救援の手がさしのべられること。
()
- ② 被災した人たちが、できるだけ不自由のない生活が過ごせること。
()
- ③ 被災した人たちへの救助や、まちの復興が、できるだけ円滑に進むこと。
()
- ④ 台風や地震でも壊れない、丈夫な建物や道路・ライフラインを作ること。
()
- ⑤ 建物や道路・ライフラインが壊れても、その被害が小さくてすむこと。
()
- ⑥ 建物や道路・ライフラインが壊れても、すぐに復旧できること。
()

(2) あなたの住んでいるまちは、災害に強いまちと言えるでしょうか？ 次の項目を確かめてみましょう。□に○や×をつけてみましょう。

- ① 近所の人たちと、ふだんからつきあいがある。… □
* 井戸端会議・自治会活動・地域コミュニティー活動などに参加している。
- ② 人が集うことができる所がある。…………… □
* 公民館・コミュニティーセンター・学校等の施設が近くにありよく利用している。
- ③ 広場がある。…………… □
* 緊急時の物資や資材の置き場所、仮設住宅の建設地として利用できる。
- ④ 広い道路がある。…………… □
* 緊急時にも車が通れ、物資の輸送などがスムーズにできる。
- ⑤ 建物が頑丈である。…………… □
* 大地震でも、壊れて下敷きになることはない。
- ⑥ 木立ちがある。…………… □
* 火災が発生しても、防火林の役割をする。
- ⑦ 治山工事が完了している。…………… □
* 崖崩れ^{がけくず}の心配がない。
- ⑧ 治水工事が完了している…………… □
* 河川のはんらの心配がない。
- ⑨ 情報のやりとりができる。…………… □
* 電話、テレビ、ラジオ等外部との連絡がとれる。



(3) あなたの住んでいる町を、災害に強い町にするために、必要な物はなんですか？

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal blue ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.

(4) あなたのまちづくりプランのために必要なものをまとめ、宝塚市長さんにメッセージを送ってみましょう。

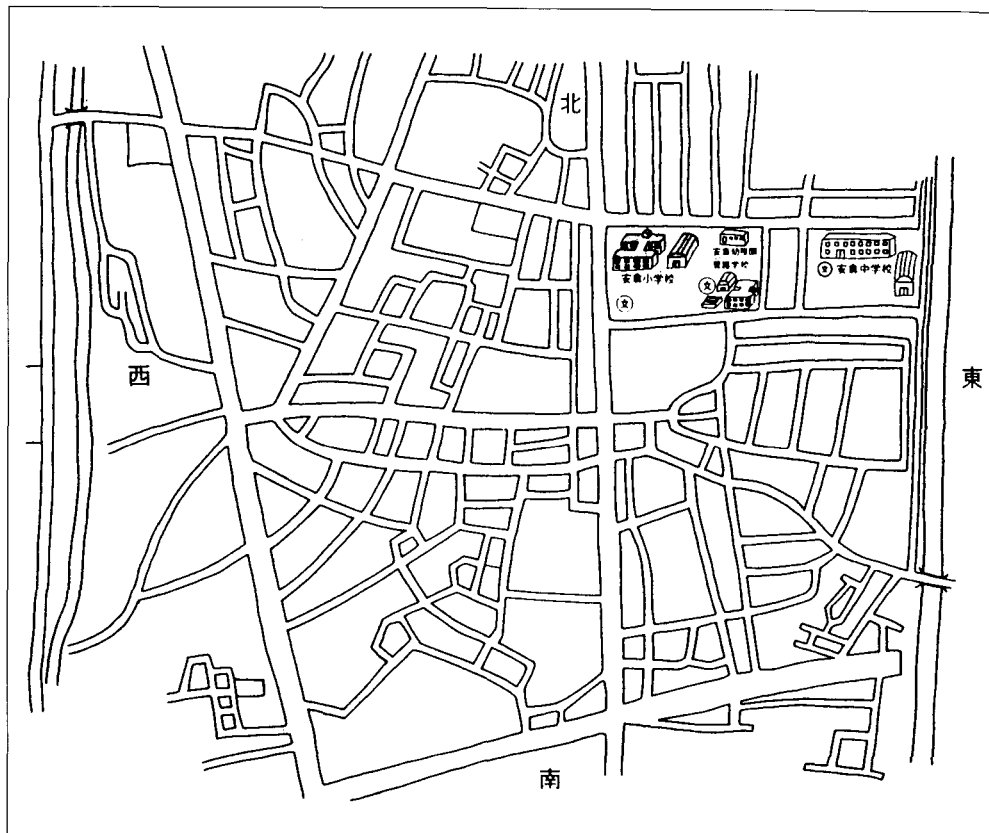
宝塚市長へのメッセージ 『ぼくのわたしのまちづくりプラン』

() 小学校 名前 ()

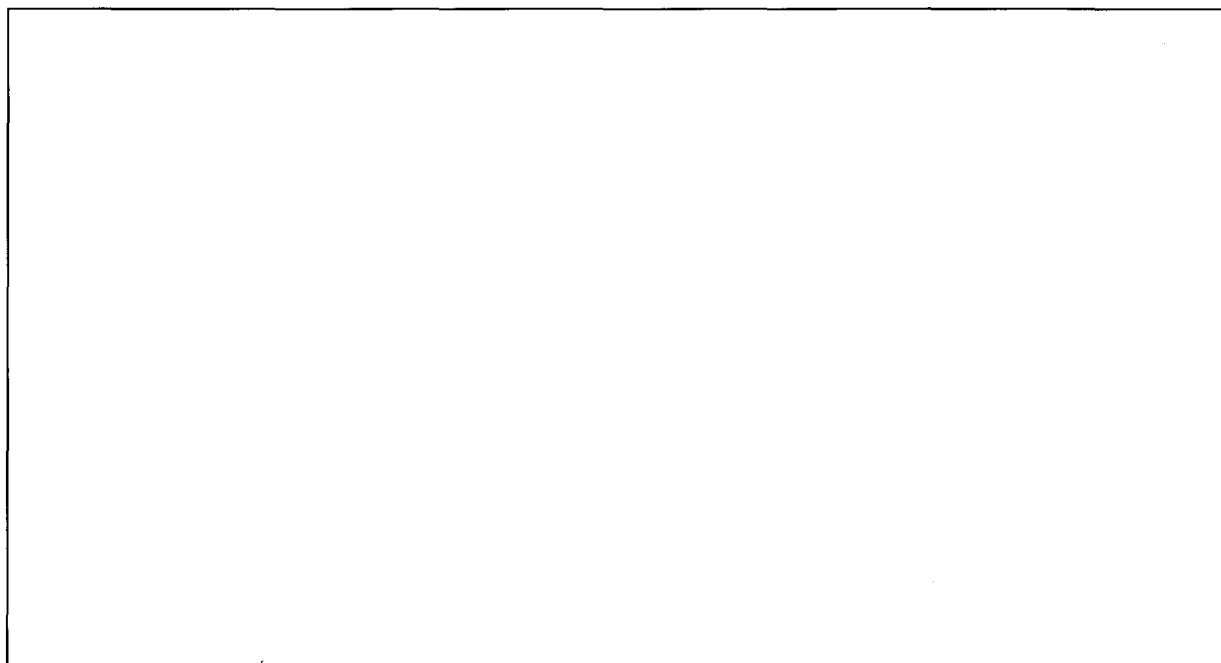
*できあがったメッセージは、担任の先生に渡しましょう。あなたの学校から、教育委員会を通して、宝塚市長さんに手渡されます。

まちづくりのプランを絵に描いてみよう

1. 第1章第3節の『しんばいマップ』をもとに校区を災害に強いまちに作り直してみよう！



2. 未来の災害に強く、住み良い宝塚のまちを自由に絵に描いてみよう！



防災読本作成委員会

<小学校部会>

委員長	柳 沢 勇	宝塚市立安倉北小学校	校長
副委員長	村 上 慶 治	宝塚市立中山五月台小学校	教頭
委員	小阪田 明	宝塚市立光明小学校	教諭
委員	宮 辺 邦 明	宝塚市立すみれが丘小学校	教諭
委員	田 中 伸 介	宝塚市立仁川小学校	教諭
委員	万 本 生 二	宝塚市立安倉小学校	教諭
委員	井 東 剛	宝塚市立末広小学校	教諭
委員	大 山 善 久	宝塚市立安倉北小学校	教諭
委員	松 山 誠	宝塚市立長尾小学校	教諭
委員	八 幡 佳 英	宝塚市立良元小学校	教諭
委員	三 木 優	宝塚市立逆瀬台小学校	教諭
協力委員	花 崎 進	宝塚市立教育総合センター	研修担当指導主事
監 修	辻 恵 子	阪神心理センター所長 (スクールカウンセラー)	

<中学校部会>

委員長	九 鬼 和 雄	宝塚市立長尾中学校	校長
副委員長	埜 村 和 彌	宝塚市立宝塚第一中学校	教頭
委員	奥 谷 洋 子	宝塚市立宝塚中学校	教諭
委員	小 林 秀 昭	宝塚市立宝梅中学校	教諭
委員	井 上 秀 清	宝塚市立御殿山中学校	教諭
委員	大 本 日出康	宝塚市立安倉中学校	教諭
委員	大 仁 一 男	宝塚市立長尾台小学校	教諭
協力委員	奥 田 誠 治	宝塚市立教育総合センター	研修担当指導主事
協力委員	中 村 泰 衛	宝塚市立教育総合センター	研修担当指導主事
監 修	羽 下 大 信	神戸外国語大学教授 (スクールカウンセラー)	

<事務局>

イラスト	香 村 道 夫	宝塚市教育委員会事務局学校指導課	主幹
編 集	高 田 親 治	宝塚市教育委員会事務局学校指導課	指導主事

1.17忘れへんで

防災教育副読本
(小学校編)

平成9年1月17日

宝塚市教育委員会
宝塚市東洋町1番1号
TEL 0797-71-1141

印刷 やまかつ株式会社



©Tezuka Productions